

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292400116		
法人名	社会福祉法人奥津軽会		
事業所名	グループホームなかさと		
所在地	青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山434番地1		
自己評価作成日	令和6年7月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和6年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で約4年にわたり行動制限されていたこともあり、今年度は利用者様とお花見や地区のドライブ等も積極的に行うようにして、喜ばれています。 施設周辺に花や野菜を植えたプランターを配置し、季節や気候を感じることができるように配慮しています。 ご家族様との面会や状態説明等も柔軟に対応し、お互いが安心して過ごせるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、町の避難所の一つとしてのホーム機能提供を考えており、地域住民にホームを理解してもらうと共に、交流拡大を図っている。 また、毎日の申し送りの時間を活用した、通報連絡や緊急時対応、身体拘束、虐待等の短時間研修も企画しており、サービスの質の向上のために、全職員が理解していつでも対応できるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者様の日々の生活に寄り添い、今日も一日でいいいに、地域ともに」を介護理念に掲げ、朝の申し送り時に唱和して、理念を全職員で共有し、日々のサービス提供に反映している。	地域密着型サービスの役割を反映させた、開設当初からの理念があり、管理者及び職員は、利用者が誇りや喜びを感じることができるよう、日々理念を反映させた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度まで外出や地域との交流が制限されていたこともあり、引き続き、地域との繋がりを持つ機会は少ない。しかしながら、町の「なにもささ踊り」の見学に行く等、少しずつ交流機会を増やしたいと努力している。	コロナ禍では地域との交流が難しかったが、地域の祭りを見に行く等して、できる限り地域と交流できるように取り組んでいる。また、運営推進会議のメンバーにも見学可能なことを働きかけ、ホームを理解していただくと共に交流を図れるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する相談にはその都度対応している。また、美容室の来訪により、会話を通して、利用者様の状態を地域の人達に理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回開催しているが、昨年度までのコロナ禍での書面開催から、施設開催へ変更している。行政や地域包括支援センター等からの提案等を、今後のサービス向上に活かしている。	運営推進会議ではホームの行事や研修、取り組み状況等を報告し、メンバーから意見やアドバイスをいただきながら、より良いホーム運営に繋げていけるように取り組んでいる。また、会議では、認知症についてメンバーの理解を深める機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問やわからない事は、行政の担当者とその都度連絡をして質問し、指導や助言等をいただいている。	運営推進会議には、町の担当課職員や地域包括支援センターの職員が参加している。また、制度に間する事等、必要に応じて行政から助言を得たり、相談を行う等、課題解決に向けて連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを整備し、身体拘束対象行為の理解や研修を実施している。	身体拘束に関する指針やマニュアルを整備している他、定期的に身体拘束適正化委員会を開催している。職員は、外部研修への参加や勉強会等を通じて、身体拘束の内容や身体的・心理的弊害について理解を深めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時、虐待の見過ごしがないよう、アザや傷が見られた時は、施設長やケアマネージャーに報連相を行い、対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用している利用者様があり、対応している。また、権利擁護に関する制度が必要となる場合は、ご家族や関係者と話し合いについて関係機関に相談し、対応するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書と契約書を用いて十分な説明を行い、ご家族の入所への思い等を十分に聞き取りして、相互に納得した上で契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族が不安に思っている事、要望等をその都度伺い、その思いを理解し、迅速に対応している。玄関に意見箱を設置して、ご家族の思いに寄り添えるように努めている。	日頃から、利用者や家族との関係構築に努めている他、相談・苦情窓口を重要事項説明書に明示し、意見等を出しやすいようにしている。また、出された意見・苦情等については、随時、管理者及び職員で話し合い、対応策を検討し、苦情対応フローに沿って対応する体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や毎月の職員会議で、職員の意見や提案を聞いている。また、利用者様に普段から声がけをして、思いを直接確認している。	職員会議では業務の改善策等、職員からの意見や提案に対して活発に話し合いを行い、反映させる仕組みを整えている。また、今後は申し送りの時間を利用して、短時間研修に取り組んでいく予定もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の得意分野を活かした役割・やりがいを持ち、職務に励めるようにしている。勤務時間の他、有休休暇を取得しやすいように環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務を通して、職員間で情報・知識を共有し、スキルアップに繋げている。また、職員には積極的に資格取得するように声がけをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政機関主催の会合や研修に参加し、他事業所職員と情報交換や疑問等を話し合い、サービス向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設での生活の不安や迷いに寄り添い、思いを傾聴し、不安を軽減して施設で安心して過ごせるよう、何でも話せる関係作りに努めており、職員にも徹底している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込時から、入所の経緯や要望・疑問等を聞き取りし、入所に対するご家族の不安等を払拭できるよう、信頼関係の構築を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態を観察し、利用者様とご家族の思いを伺って、サービス提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の動作や表情等を観察し、思いを導き出して、職員と一緒に生活していく家族であることを説明しながら、不安なく生活できるよう、支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは生活の状況や身体の状態等を共有し、ご家族が利用者様を心配することなく過ごせるようにしている。更に、利用者様とご家族の関係が希薄にならないよう、ご家族の協力を得られる関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様やご家族の要望により、地域の顔馴染みの人達とふれあう機会を設け、利用者様が地域の一員であることを思っていたけるように努めている。	友人や知人等の面会を積極的に受け入れ、ゆっくりと気兼ねなく話ができるよう、環境作りを行っている。職員は日々のコミュニケーションの中で、利用者の馴染みの関わりを把握し、職員間で内容を共有している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状態を観察し、職員が間に入って積極的に声がけをしている。職員は共通の話題を提供したり、地域の現在の様子を伝える等、利用者様の記憶に残っているような話題を提供している。また、会話の和を広げ、利用者様が孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に応じる等、できる限り支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に、会議で利用者様の希望や意向、思いを共有し、職員が利用者様の思いに寄り添ったサービス提供ができるように努めている。困難な意向については、本人と話し合い、できる限り意向に沿えるようにしている。	利用者の話をじっくりと聞くように努めている他、ケース記録や送りノートを活用、アセスメントを基に、日々のケアを通して、利用者の思いや希望、意向を把握できるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や在宅時の担当ケアマネージャーより、生活歴や趣味等の情報を収集し、これからは趣味等を楽しみながら生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態を観察し、職員が生活リズムの把握に努めている。理解する力や不得意な事を把握し、サービス提供をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族の意向を介護計画に反映し、会議で利用者様の課題を検討しながら、介護計画に基づいてサービスを提供できているか否か、評価している。また、新しい課題についても随時検討している。	職員会議や送り、連絡ノートの活用その他、都度、職員から意見を聞いて日々のケアについて話し合い、利用者本位の具体的な介護計画を作成している。また、利用者の身体状況や家族の希望等に変化があった時は、再度アセスメントを行い、介護計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に入力し、更に連絡ノートを活用して、職員は内容を理解している。また、管理者が都度、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り柔軟なサービス提供ができるよう、職員間で話をしながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨今のコロナ禍で、利用者様は地域の資源を利用する機会はなかったが、各関係者や関係機関と話し合い、今後検討していきたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族の意向に沿って、可能な限り在宅時と同じ医療機関を受診できるように支援している。初診や検査等がある場合で、且つご家族が対応可能な場合、同行していただき、情報を共有していただくようお願いしている。	アセスメントにより利用者の受療状況を把握し、入居前の医療機関への受診を継続できるように支援している他、専門医への受診も支援している。受診対応はホーム職員が行い、受診結果を家族へ報告し、共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内にある小規模多機能型居宅介護事業所の看護職員と情報を共有し、利用者様の状態に変化が見られた際は、その都度看護職員に相談し、受診が必要か否か見極めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供書を作成し、できる限り早い段階で情報提供をしている。また、日頃から、各病院の地域連携室の相談員との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した時や終末期の対応（看取りはしていない等）について、本人とご家族に説明している。状態に変化があった時は、利用者様やご家族の希望を基に対応する体制としている。	利用者の重度化や終末期の対応は行っていない旨、ホームの方針を明確にしている。利用者の状態に変化があった時は、利用者や家族の意向を確認し、医療機関や他施設への引き継ぎ等の支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網を整備している。急変時に 関する研修等を実施し、知識の向上に努め ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につけ るとともに、地域との協力体制を築いている	訓練や研修等で、火災や地震等発生時の 対応や、救助要請方法等の確認を行ってい る。	いざという時に適切な避難誘導が行えるよ う、年2回、併設施設と共に、時間を測定しな がら避難訓練を行っている。また、災害発生 時に備え、食料品や飲料水、自家発電機等 を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の呼びかけ等、言葉の暴力となら ないように十分に注意しており、笑顔で接 し、プライバシーに配慮した対応を心がけて いる。	利用者の尊厳を大事にしており、排泄や衣服 の交換時等、羞恥心やプライバシーに配慮し ながら対応している。また、守秘義務や個人 情報の取り扱いについて、新人研修や勉強 会等の機会に、確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	利用者様の性格や意思の伝達能力を考慮 し、日頃から表情や動作を観察して、声がけ をしながら自己決定の支援をしている。ま た、難聴の方には、筆談やジェスチャー等で 働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての日課は決まっているが、利用 者様の状態や思いに応じた一日が過ごせる ようにしている。余暇活動の参加等も、強制 にならないように配慮し、本人の意思を尊重 して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	身だしなみやおしゃれする心は、生涯持ち 続けてほしいとの思いで支援している。衣服 は季節に合っているか、その人らしさ失っ ていないか等、観察しながら、さりげない声 がけで支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルやお盆拭き、食後の後片付け等、負担にならない程度で手伝いをお願いしている。昼食は職員が同じテーブルに着き、食べこぼしやむせ込みがないか、黙食しながら見守りをしている。食べられない物には代替食を提供している。	食材は業者に委託しており、利用者の嗜好や禁忌物、咀嚼状況に応じて、職員が調理して提供している。また、山菜の皮剥きやテーブル・お盆拭き等、利用者の意思や能力に応じて、職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は記録に残し、全職員で把握している。法人内の栄養士に相談し、助言を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きを実施している。忘れたり、一人でできない利用者様には声がけや介助を行い、口腔内の清潔保持ができるように努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	リハビリパンツや尿取りパットの使用について、利用者様の意向に沿った対応をしている。また、状態に応じて、自尊心を傷つけないように十分に配慮し、見直しも行っている。現在、利用者様全員がトイレで排泄している。	排泄チェック表により、利用者一人ひとりの排泄状況を把握している。ほとんどの利用者は排泄が自立しており、安心のためにリハビリパンツや尿取りパットを使用している状況にあるため、必要に応じて使用の継続等を検討する体制となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を職員が理解し、便秘が続いた時は薬に頼るのではなく、果実や乳製品の摂取量等を考慮したり、運動を取り入れ、腸の働きが活発になるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日や入浴時間は概ね決まっているが、入浴の順番は当日の体調を考慮したり、本人の要望に配慮し、臨機応変に、足浴やシャワー浴に変更している。	利用者の入浴習慣や好みに合わせ、週2回は入浴できるように支援している。また、利用者が安全に入浴できるよう、1体1で対応しており、利用者の状態に応じて、シャワー浴や清拭、足浴等を行い、負担とならないように配慮しながら入浴支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は利用者様個々の生活リズムを把握し、可能な限り、利用者様の意思に任せ、体調を見極めながら、余暇活動の参加を取りやめて休息を促す等している。また、夜間に眠りが浅い時は、要因を見極めて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が利用者様の病状・病歴を理解し、薬の内容等を把握できるように取り組んでいる。飲み忘れや飲み違い防止のため、チェック体制を整えている。また、服薬による状態変化がないか、観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々の希望や特技、趣味、生活歴、性格を考慮し、役割をお願いしている。天気の良い日には、敷地内のゴミ置き場へのゴミ出しの役割を持っていただき、「外に出るとサッパリする」と喜ばれている。また、嗜好品については、過度にならないよう、話し合って対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の気分転換や、少しでも季節を感じてもらいたいとの思いから、お花見等の外出を行った。散歩を兼ねて施設の敷地内を歩き、お日様の光を浴び、風に触れ、季節を肌で感じてもらっている。	日常的に、ホーム敷地内を散歩したり、ドライブを行い、利用者の気分転換に繋がるように支援している。また、利用者の希望を聞きながら外出行事を計画し、身体状況等に合わせ移動方法や移動距離にも配慮し、外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理し、本人の希望に沿い、安心のために少額のみ自己管理している利用者様もいる。おやつや日用品等の買い物依頼があった時は、所持金からの購入、若しくは家族が買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から依頼があった時は、電話の支援をしている。荷物等が届いた時は連絡をすぐにして、本人の状態をお知らせしている。また、遠方のご家族には定期的に電話し、近況をお知らせしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に胡蝶蘭等を配置して、毎年その花を咲かせて楽しんでもらっている。天気の良い日は窓を開けて、太陽や風を感じていただき、余暇活動で季節毎の作品を作り、廊下に飾って季節を感じてもらっている。また、移動の妨げにならないよう、動線には物を置かないようにしている。	ホールの壁や扉は木目調で統一され、天井の吹き抜けには梁がある他、壁には季節の壁画も飾られている。また、利用者が思い思いの場所でゆっくりと寛げるよう、ソファも配置されており、ぬいぐるみも置かれて、家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はいつでも自由に利用できる。食事の際の席は利用者様同士の関係を考慮して、随時席替えをしている。余暇活動の際は、活動内容に合わせてグループ分けをして、同じ活動の人達が話し合いしやすいように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に利用者様やご家族にお願いして、馴染みの物や大切な物を持って来てもらい、安心して過ごせる雰囲気作りを行っている。居室の飾り等は職員が提案等をして、一緒に行っている。	各居室には洗面台やトイレ等が完備されている他、簡易ダンスや位牌、家族の写真、人形、置き物等が持ち込まれている。職員は利用者が落ち着いて過ごすことができるよう、意向に沿って居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境面や福祉用具等を整備しており、移動や排泄等は身体機能に応じて安心・安全に配慮し、過介助にならないように心がけている。		